



2010年  
夏季号

金沢脳神経外科病院だより

# ふれあい

日本医療機能評価機構認定病院  
医療法人社団 浅ノ川  
金沢脳神経外科病院 広報誌  
**第39号**  
発行所/広報企画室  
石川県石川郡野々市町郷町262-2  
TEL 076-246-5600  
FAX 076-246-3914  
<http://www.nouge.net>

## 病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

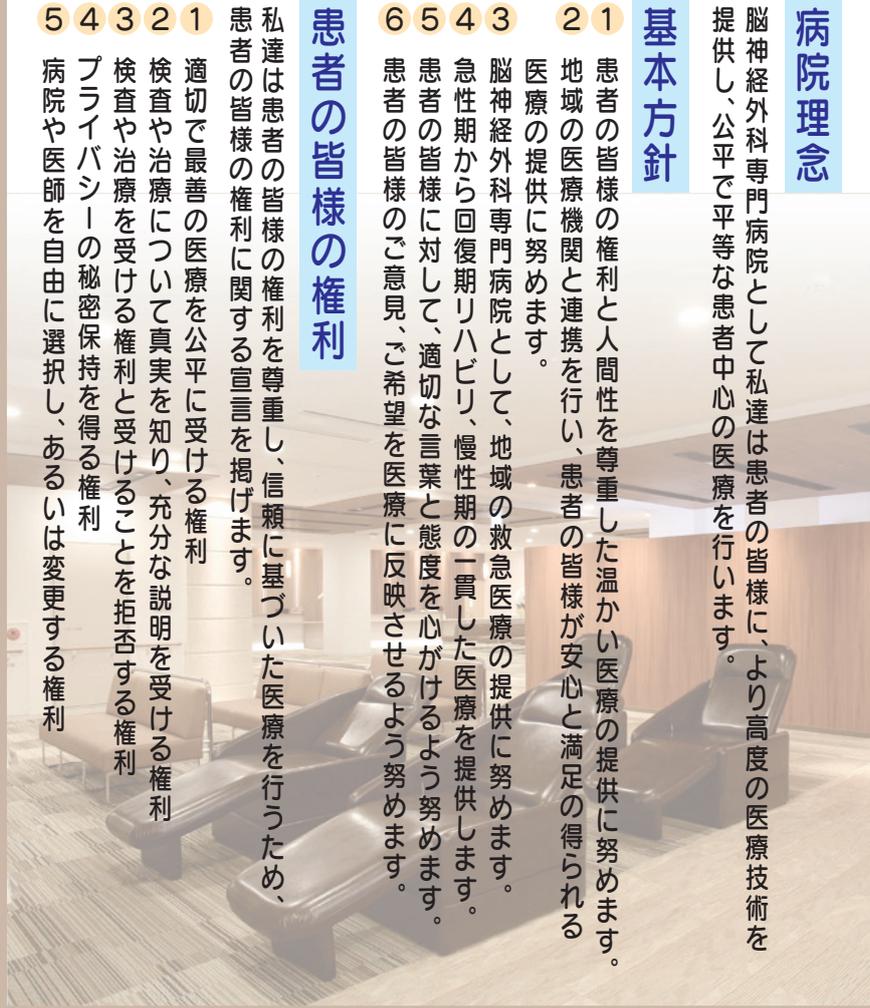
## 基本方針

- 1 患者の皆様のご権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
- 2 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
- 3 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
- 4 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
- 5 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
- 6 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

## 患者の皆様のご権利

私達は患者の皆様のご権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様のご権利に関する宣言を掲げます。

- 1 適切で最善の医療を公平に受ける権利
- 2 検査や治療について真実を知り、十分な説明を受ける権利
- 3 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
- 4 プライバシーの秘密保持を得る権利
- 5 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利



## リハビリテーションの 考え方

副院長・リハビリセンター長

山口 昌夫



「本来リハビリテーションというのは、患者の病気の進行を押し止めたり苦痛をなくしたりしただけでは医療の目的を達することはできないという認識から出発している。病気は治ったがベッドの上で寝たきりのままでは仕方がない。ご飯も自分で食べられないし、歩いて便所に行けないというのでは、治った甲斐がない。治った以上は家庭内で自立ができ、一人前でなくてもそれに近い程度の社会的活動もできなくては、本当の意味で治ったとは言えない。治療とは本来、患者を元の生活人のレベルまで帰すことではなくてはならないはずである

—というのがリハビリテーションの考え方である。」と国立療養所東京病院名誉院長であった砂原茂二さんは書いています。自立とは心身機能のみに依るのではなく、適切な道具と環境と人的援助込みでの自立を指します。

従って障害のある人が新しい人生を歩むことを目的とするリハビリテーションにはあらゆる手段が必要です。医療機関・施設におけるリハビリテーション医療はその一部です。一部ですが最初に係わる手段であり、遅れたり不適切であれば後々重大な損失を招きます。再び砂原さんの言です。「二度長く寝かせておいて、何ヶ月も経ってからリハビリテーション(医療)を始めて、そして歩いたり、自分でいろいろなことができるようにしようなどというの、まるで一度スルメにしたものを水に戻して柔らかくしようとするものです。」最初が肝心です。急性期から回復期を担う当院のリハビリテーション医療はこのリハビリテーションの理念を目指しています。



登録医療機関紹介コーナー



しおのやクリニック



院長：塩谷 隆策先生

地域に密着した医療を提供するホームドクター

兵庫県の「舞子の浜」を髣髴とさせるとして、「小舞子」と名づけられ、日本の渚百選に選ばれている小舞子海岸。今回ご紹介する「しおのやクリニック」は、JR小舞子駅から徒歩5分、波の音と潮風が心地よい白山市湊町にあります。院長である塩谷隆策先生が、多忙な中、貴重な時間を割いてお話しを聞かせてくださいました。

白山市湊町には診療所が1軒しかありません。しおのやクリニックは、この地域の方々から長年慕われ、頼りにされていた先生のお父様の塩谷大策先生が院長であった湊診療所が閉院となり、その地域医療の意志を継いで平成13年9月に開院されました。24時間対応可能な在宅支援診療所として高血圧や

糖尿病、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病や禁煙外来などの診療に加え、往診にも力を入れていらっしゃいます。また、呼吸器を専門とされる先生は、体の中に酸素を十分に取り込めず、長期にわたり自宅で酸素吸入を行う在宅酸素療法をされている患者さんを4名、鼻マスクを利用して空気を送り込み、圧力をかけ、気道を閉じないようにするCPAP療法をされている睡眠時無呼吸症の患者さんを5名診ておられます。

先生は、「地域のかかりつけ医として眼疾患や皮膚疾患など、どのような患者さんでも診ていきます。そして、患者さんの状態を診て必要であれば専門医を紹介していきます。しかし、近隣の病院には呼吸器が専門の常勤医はいませんので、呼吸器疾患の患者さんは、時間を問わず診ていかなければならないと考えています。」とお話されていました。

当院との連携については、「専門性の高い入院機能を持つ

病院が近くにあることは心強い。また、患者さんを紹介した際に、きちんと診断病名を記載した報告が帰ってくるのは非常にありがたい。」とのお言葉をいただきました。

今回の取材を通して、地域に密着した医療を提供される先生のご期待にこたえるべく、「地域の実情に合わせ、なにをしなければならぬのか。」を考え、脳神経外科専門病院として尚一層の努力を重ねていきたいと思えました。



〒929-0217  
石川県白山市湊町し33-1  
○電話番号  
076-1278-3355



1. 手術治療の必要な椎間板ヘルニア

ヘルニアによる症状の多くは、時間の経過と共に改善しますので、例外を除けば、急いで手術が必要というわけではありません。薬物治療や神経ブロックなどで痛みのつらい時期を乗り切れば、多くは自然に治癒が訪れます。自然治癒が期待できるのは、私の経験ではヘルニア発症後およそ3カ月以内に症状の改善が進

シリーズ 脊椎最前線 ②  
 ～ 腰椎椎間板ヘルニアの手術 ～  
 病院長 佐藤 秀次



2. 椎間板ヘルニアに対する手術治療

手術治療で代表的なものは、ラブラ法と呼ばれる手術法です。この方法では、5 cm位の皮膚切開を加え、もともと存在する骨の隙間を利用して肉眼下にヘルニアを摘出しますが、

む場合です。問題なのは、一向に症状の改善が進まない場合です。このような場合には良くならない理由が必ずありますので、専門医の診察が必要です。手術治療の時期について、私は次のように考えています。ヘルニア発症後3～6カ月経過しても生活に支障となる痛みやしびれ、座位や歩行障害が続いている患者さんでは手術治療が必要でしょう。ただし、3カ月以内でも下肢の筋力低下が進む場合や排尿・排便機能障害が表れた場合には早急な手術治療が必要となります。さらに、ヘルニアに対する手術治療で留意すべき点は、神経機能障害が後遺症として残らない時期に手術が適切に行われるべきということです。



神経を障害する危険性が低いわけではありません。近年は、3 cm位の切開で筋肉を剥離して、手術顕微鏡下により安全にヘルニアを摘出する方法が普及しています。私は、手術顕微鏡と直径1.6 cmの筒状の開創器を用いてヘルニアを摘出するMD法を行っています。筒を入れるための皮膚切開は1.5 cmと小さくまた、筋肉の剥離は行わないので、術後の痛みが極めて少ないことが特徴です。出血量も10 ml(cc)ですみます。術後



は翌日から歩行が開始でき、1～2週間で退院できます。術後の痛み止めは8割の患者さんで不要です。また退院後の通院治療も通常は必要ありません。このようなMD手術を80人以上の椎間板ヘルニアの患者さんで行ってきましたが、95%の患者さんで症状の改善がみられます。術後に症状の悪化が起こり、それが後遺症として残った患者さんはいらっしゃいません。MD手術は全国的にはまだ普及していませんが、多くの患者さんがMD手術を希望していることから、それに対応できる外科医の増えることが期待されます。



患者さんコーナー

気配りがうれしかった。

笠井 俊一様



手術で入院するという経験は初めてのことであり、それだけに不安な気持ちで一杯だった。「起きてください！」麻酔から覚め、手術が終わった解放感もあり、不思議と身体が軽く感じられ、と同時にあの不快な左足の痛みも和らいでいた。しかし、それは点滴とカテーテルでベッドから動けない長い一日の幕開けでもあった。とりわけ夜まで水分が取れないということには閉口した。そんな中、看護師さんが勧めてくれたうがいにはありがたかった。あと六



時間、三時間…私にとって大変長い時間だった。もうすぐお茶が飲める時間だ。と、その時「はい、お茶ですよ。」と飲ませてくれたお茶のおいしかったこと。まさに絶妙のタイミングだった。そして更に驚かされたのは、その後のお茶を頼んだ時のことだった。私にとって熱すぎたお茶を、事前に冷ましてから入れてあったことだった。このマニュアルには無いであろうこまやかな心遣いには感激させられてしまった。各専門医による事前の周到な説明は大変安心感があった。また、「具合はいかがですか?」と度々声をかけてくれる先生を始め、師長や看護スタッフの皆さんの充実したきめ細かい気配りのお陰で大変安心で満足した。本当にありがとうございました。

創設30周年  
おかげさまで30周年

今年、当院は多くの方に支えられ、創立30周年を迎えました。この記念すべき年を迎えるにあたり1年前よりワーキンググループを発足させ、式典等の企画や記念冊子などの準備を始め、5月29日には記念式典を、7月4日には記念行事を行いました。記念式典には、多くの関係各位の方々にもおこし頂き、お祝いの言葉も多数頂戴しました。そして、当院の

これまでの歩みを映像化したDVDの上映や当院設立にあたりご尽力いただいた角家金沢医科大学名誉教授への感謝状の贈呈などが行われ、盛況のうち閉会しました。



7月4日の記念行事は「ふれあい健康フェスタ」と題して、病院の一部を開放して健康相談、体力測定、AED体験コーナーといった病院ならではの催し物や、佐藤病院長、山口副院長による講演会も行われました。その他、舞踏家藤間信乃輔氏指導による『和ごころ舞』体験コーナーや介護食の試食コーナーにも多くの方が参加してくださいました。当院はこれからも、地域に密着した頼れる病院として、皆様のお役に立てるよう職員一同が「丸」となっていきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

相談コーナー



「和ごころ舞」体験



試食コーナー

